

Mobility for People

オットーボック・ジャパン株式会社
会社案内



Quality for life

ミッション

創業者の精神を心に



義足製作中のオットー ボック

オットーボック社のミッション（使命）

身体的障がいをもった人々がその障がいを忘れてしまうほどの優れた義肢・装具を研究開発し、生活の質を高めるための最善の方法を提供すること

オットー ボック（創業者）のミッションステートメントから抜粋



創業当時のオットーボック本社（ケーニヒスゼー）

オットー ボック（創業者）のミッションステートメント



オットーボック社の使命と目的は、手足を失った人々や身体的障がいをもった人々がその障がいを忘れてしまうほどの優れた義肢・装具を研究開発し、これらを彼らが実生活上で使用する
ことで、人生に再び意義を感じられるようになるための手助けをするということです。

これは、義肢・装具業界に携わるすべての人たちに共通する、意義のある、そして最も重要な使命であるといえます。我々が、目的の実現に向けて自らの仕事に専念すればするほど、より興味深い実りの多い成果を出すことができるでしょう。

しかしながら、我々の発展と成功はこの目的の実現に向けて、真剣に、誠意を持って取り組む
義肢装具士をはじめとする、リハビリテーションの専門スタッフの協力なくしてはあり得ません。

オットーボックのあゆみ

革新と挑戦の歴史

第一次世界大戦で足を失った人々のために

オットーボック社は1919年、第一次大戦後のドイツで創業し、激動の20世紀を歩んでまいりました。弊社の100年の歴史は、創業者オットー ボックとそれを継ぐマックス ネーダーの数多くの功績を背景にした「義肢装具の産業化とその発展」の歴史であったと言っても過言ではありません。



1919 成功への物語はベルリンから

この地で義肢装具士である Otto Bock (オットー ボック) が Orthopädische Industrie GmbH を創業しました。オットーボックが考案した義肢をパーツ毎に製造する方法は業界を革命的に変化させ、戦争で負傷した多くの兵士に義肢を供給することを可能にしました。



1920 ケーニヒスゼーに移転

戦後の不安定な政治情勢により、会社設立の翌年にベルリンからチューリンゲン州のケーニヒスゼーに会社を移転。

高品質の義肢パーツを提供するために試行錯誤を重ね、1930年代の初めには義肢にアルミニウムを使用しています。従業員数は600名を超え、ビジネスは順調に成長しました。



1947 マックス ネーダー社長就任、デューダスタットでビジネスを一から立ち上げ

創業者オットー ボックの娘婿である Dr. Ing. Max Näder E.h (マックス ネーダー) が新たに設立した Orthopädische Industrie KG の社長に就任。翌年オットー ボックの全ての個人資産とケーニヒスゼーの工場が何の補填もなく旧東ドイツ政府に没収。旧西ドイツのニーダーザクセン州、デューダスタットで新たにビジネスをスタートします。



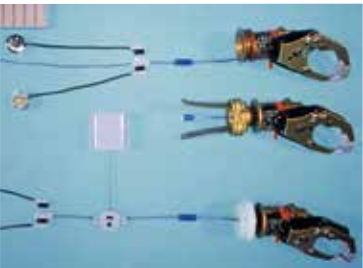
1953 創業者オットー ボック逝去

創業者オットー ボックが64歳で逝去します。この頃から義足に使用するポプラ材が手に入り難くなり、その代わりとして化学材料が義足に初めて使用されました。1953年に Otto Bock Kunststoff (オットーボック プラスチック社) が創業。今日ではウレタンフォーム等のリーディングサプライヤーとなり、自動車やその他の業界で使用されています。



1958 国際化の始まり

マックス ネーダーがアメリカ、ミネアポリスに最初の海外子会社を設立したことから国際化が始まります。今日までに全世界に50の海外子会社が設立され、オットーボックは義肢業界において、いち早くグローバルプレイヤーとなりました。



1962 筋電電動義手の開発

筋肉から得られる微弱な電流 (筋電位) を電極で採取し、ハンドの開閉スイッチとして利用する「筋電電動義手」が開発されました。今日でも、オットーボックの筋電電動義手は世界のスタンダードとして多くの方々に使用されています。



1969 義足のモジュラーシステムの開発

今日の義足システムの基準となっている「モジュラー義足」の革新的な発明が義足の機能を新しいレベルに引き上げました。モジュラー義足の特許技術は、オットーボックのマーケットポジション確立に大きく貢献しました。

オットーボックのあゆみ

革新と挑戦の歴史



1990 ハンス ジョージ ネーダーCEO就任

マックス ネーダーの長男、Professor Hans Georg Näder(ハンス ジョージ ネーダー)がオットーボックのCEOに就任。第3世代となるハンス ジョージ ネーダーの統率により、世界40カ国以上に拠点を持つブランドに成長しました。



1992 ケーニヒスゼーへの帰還

東西ドイツの統一後、旧東ドイツ政府に没収されていたケーニヒスゼーの旧本社社屋を買い戻し、車いすの製造工場を設立しました。



1997 未来を切り拓くコンピューター制御膝継手 C-Leg

コンピューター制御膝継手C-Legを発表。C-Legは、比類ない安全性と追随性により新しい歩行の領域を切り開きました。C-Legの登場により、コンピューター制御の義肢パーツ開発が加速します。



2016 オットーボックのスポーツ義足がフルラインナップ

成人用の「ランナー」、子供用の「ランナージュニア」、様々なスポーツに使用できる「チャレンジャー」が開発され、従来のスポーツ足部「スプリンター」に加え、スポーツ膝継手「3S80」と共にフルラインナップが完成しました。



義肢、装具、車いす、外骨格装置

2018 東京2020パラリンピック競技大会のオフィシャルサポーターに決定

ottobock.

12月にオフィシャルサポーター契約を締結し、治療用医療器具、リハビリ及びモビリティヘルスケア製品(義肢、装具、車いす含む)、外骨格装置のカテゴリースポンサーとなりました。東京2020パラリンピックにおいても、参加する全選手が使用する義肢、装具、車いす等の機器の修理サービスを提供し、選手と大会をサポートします。

品質と革新を世界に届ける

総合福祉機器メーカーとして

1919年にベルリンで創業して以来、オットーボック社はお客様に快適で、自立した生活をおくっていただくために、高品質な製品、革新的な製品の開発を続けてまいりました。今日では義足、義手、装具、車いす、リハビリテーション機器を取り扱う総合的なメーカーとして、お客様の生活を豊かにする製品とサービスを提供しています。

オットーボック本社

オットーボック社の本拠地は、中世の歴史の名残をとどめるドイツの街、デューダスタットにあります。



オットーボック本社



デューダスタットの街並み

世界各国の拠点

世界50カ国にセールスとサービスの拠点をもち、お客様と迅速で緊密な関係を築いています。



取扱製品

義肢・装具・モビリティー製品

日本国内での取扱製品は、3つに大別されます。

■ 義肢

外傷や病気などで失った手足の代わりに用いる義足、義手。
その製作に必要なパーツを網羅しています。

現代の義肢はいくつかのパーツを組み合わせて製作されます。使用するお客様一人ひとりの身体の形状に合わせて作られるソケットは、義足、義手と身体を繋ぐインターフェースです。膝、足部、ハンドなどのパーツは、切断レベル、活動レベル、生活環境などに合わせて選択されます。
オットーボックでは、多種多様なニーズに応える義肢製作を可能にするため、業界最多の製品ラインナップを揃えています。
また、ソケット製作に必要な材料や製作現場の環境や利便性に配慮した機械工具まで取り扱っています。



■ 装具

ケガや病気などにより失った機能を回復、または残された機能を維持させる製品です。

装具は、病気やケガなどにより身体の機能が低下したり、失われたりした際に、その機能を補ったり、患部を保護、サポートするために装着します。
オットーボックの装具製品は、治療や更生を目的とし、医師の処方に従って、義肢装具士が装着・適合を行う製品です。装着する部位や使用目的などに合わせて、様々な種類の製品をラインナップしています。



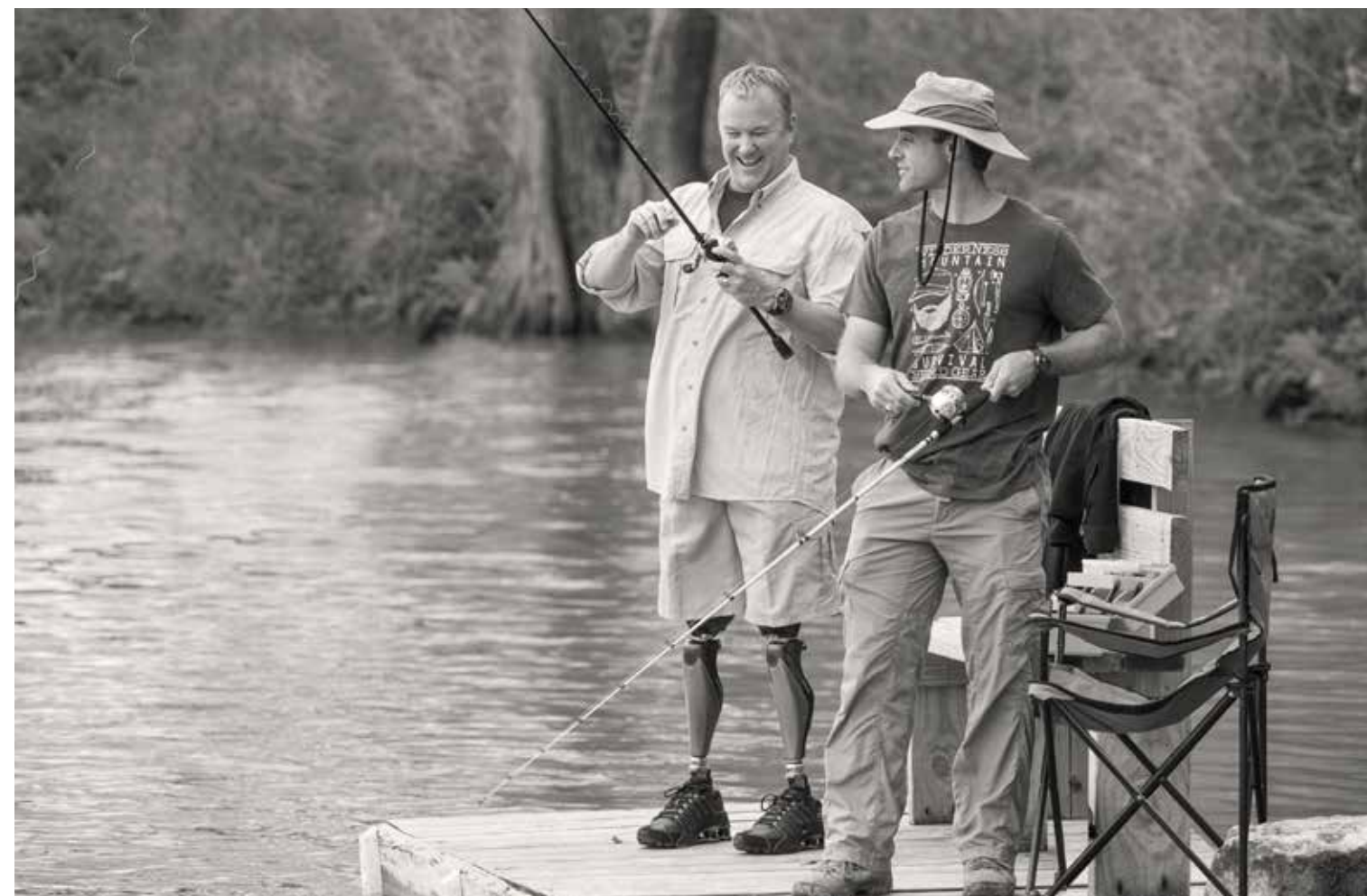
■ モビリティー製品

モジュラー式車いす、小児用歩行器やバギーなど、移動(モビリティー)の手段となる製品を取り揃えています。

毎日の生活の中で、自分の意志で自由に動くことや目的の場所に快適に移動することは、人間としての豊かな生活と尊厳を確立するための重要な要素です。オットーボックでは、ユーザーそれぞれの目的・目標を実現するためのサポートとして、様々なモビリティー製品を取り扱っています。



義肢製品



義肢製品

■ 義足パーツ

足部

地面との接点となる足。木材やスポンジを使ったものから、カーボンを使用した反発力のあるもの、最近ではコンピューター内蔵で足関節の動きを制御するものまでラインナップしています。



アダプター

ソケット、足部、膝継手の間を繋ぐコネクターやチューブ。長さや調整に応じた多様な種類があります。



膝継手

膝関節の代わりとして、転倒の危険を防ぐ安全性と、滑らかな歩行を可能とする快適性の両方が求められる膝継手。コンピューター制御のタイプが先進国ではスタンダードになりつつあります。



カバー

外観を整えるカバー。ウレタンのスポンジ材は個々の体形に応じて削り出して製作されます。最近では近代的なデザインのプラスチック製カバーも人気です。



ソケットテクノロジー

義足と身体を密着させるソケットには、様々な懸垂機能が内蔵されています。一日中身体に装着するため、クッションの役割をはたすパーツもあります。



材料

ソケットの製作に必要な樹脂、積層材、プラスチックシート材など、幅広く網羅しています。



スポーツ・小児用

お子様が楽しく生活するための小児用パーツやパラリンピック競技でも使用される走行用のパーツまで揃えています。



機械・工具

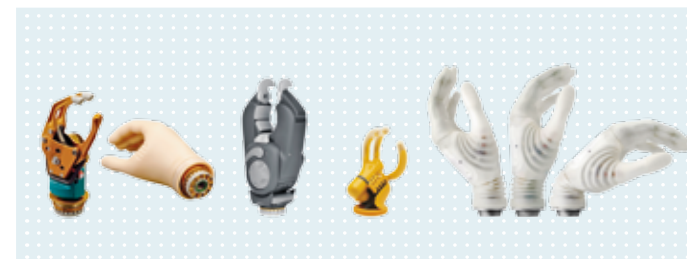
製作を行う技術者の安全と、高品質な物づくりを支える効率の良い作業性を備えた設備環境は、何よりも重要と考えています。



■ 義手パーツ

筋電電動義手

筋肉が発する微弱な電流（筋電位）を採取し、ハンドの開閉操作を行う義手。重いものや、薄いものでもしっかりと掴むことが可能です。



その他、水浴用パーツや股継手など、あらゆるニーズに応えるパーツをご用意しています。

その他

筋電電動義手以外の、様々なタイプの義手パーツも取り扱っています。いずれのパーツも耐久性に優れ、臨床現場で高い評価を得ています。



装具製品



装具は装着される部位により、上肢装具、体幹装具、下肢装具に大別され、その中でさらに詳細に分類されます。

■ ブレース・サポート

上肢(拇指CM関節・手関節)

細い動作や作業を行う上肢用の装具として、手指および手関節各部位の運動機能をサポートします。



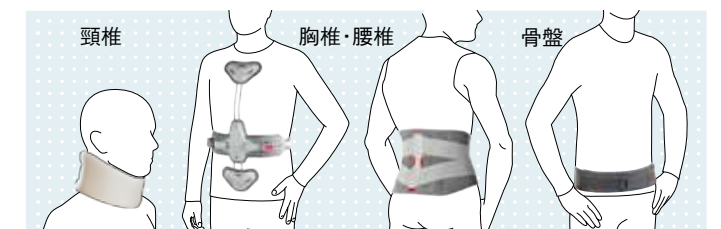
上肢(肩関節・肘関節)

細い動作や作業を行う上肢用の装具として、肩関節から肘関節まで各部位の運動機能をサポートします。



体幹(頸椎・胸椎・腰椎・骨盤)

頭部や上肢を支え、姿勢を保持する体幹部分の装具として、頸椎から骨盤まで各部位の運動機能をサポートします。



下肢(股関節・膝関節・足関節)

上体を支えて歩行するという重要な役割を担う下肢用の装具は、股関節から膝関節、足関節まで各部位の運動機能をサポートします。



■ ジョイント・バー

オッターボックスのジョイント・バー(カスタムメイド装具用のパーツ)は、モジュラー製品ならではの技術を生かし、メンテナンスや修理・交換作業などを簡易に行えます。



モビリティー製品



■ モジュラー式車いす

運動機能の障がいによって歩行や長時間の立位が困難になった場合は、適切な車いすを使用することで快適・安全な移動の自由を取り戻し、より自立度の高い日常を過ごすことができます。オットーボックの車いすは、身体状況や日常生活の変化に応じたフィッティングが可能だけでなく、ドイツ基準の優れた剛性と耐久性を兼ね備えています。

アクティブ



スタンダード



小児用



スポーツ



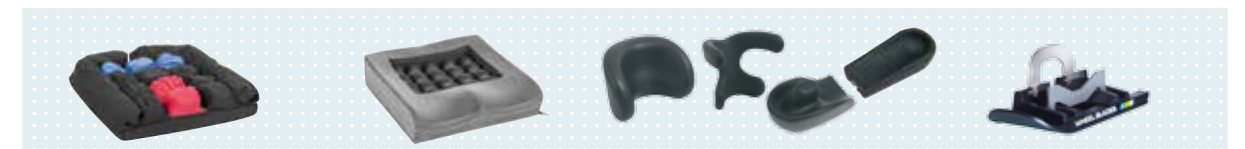
■ 小児製品

お子様にとっての「モビリティー」は、単なる移動だけでなく、より多くの社会参加の機会を獲得し、よりよい心身の発達のチャンスを最大限に広げる手段となります。これは同時に、お子様と一緒に生活するご家族の方へのサポートにもつながります。



■ 車いす用アクセサリ

クッション、シーティングアクセサリ等、様々な付属製品をご用意し、車いすでの生活がより快適になるようサポートしています。



オットーボック・ジャパンの取り組み

セミナー・技術研修・展示会

セミナー

義肢装具製作所の技術者、義肢装具士、医師、セラピストの方々等の病院関係者に向けたセミナーを行っています。セミナーでは、本社で研修を受けたオットーボック・ジャパンの技術者、ドイツから招聘したマイスター、義肢装具士などが講師をつとめています。また、臨床現場の有識者や義肢ユーザー様を講師として招き、生の声を届ける活動にも力を入れています。



技術教育/研修

医療福祉関係の大学、養成校の授業にも講師を派遣しています。



展示会

毎年行われる学会や福祉機器展において展示だけでなく、最新技術のデモンストレーションを実施しています。



修理サービス

ドイツ本社やウィーンでトレーニングを受け、修理の資格を取得した技術者が修理を行っています。定期的にメンテナンスの必要なコンピューター制御の膝継手も、製品の基準を満たしているか検査する機器を完備し、日本国内で検査をしています。お客様に安心して製品をご使用いただけるように、迅速に対応できる体制を整えています*。

* 一部の製品は本社にて修理を行っています。



デモ機の貸出

オットーボックの義肢、装具、モビリティー製品をご使用いただくお客様一人ひとりに最適な製品を提供したいという願いから、ご購入の前に試着、試乗をお勧めしています。お試しのデモ機を豊富に取り揃えています。

また、修理・メンテナンス期間中の代替品もご用意しています。



パラリンピック競技大会とオットーボック

修理サービス



ソチ 2014 冬季パラリンピック競技大会写真

オットーボックはソウル1988大会以来、夏季と冬季のパラリンピック競技大会において、参加選手が使用する義肢、装具、車いす等の修理やメンテナンスを無償で提供しています。

パラリンピック競技大会を目指して4年間トレーニングを重ねてきた選手が、使用する機器が壊れて競技を棄権しなくてすむように、また機器の不具合を気にせず競技に集中できるように、世界各国から集められたトップレベルの技術者が最善のサービスを迅速に提供することに努めています。また、あらゆる修理に対応できるように、修理に必要な機械設備だけでなく、競合メーカーのパーツも取り揃えています。

ソウル1988大会からサポート



ソウル 1988 大会の修理ブース

パラリンピック競技大会との関わりのはじまり

ソウル1988大会で4名の義肢装具士が初めて修理サービスを提供しました。

2005年からは、国際パラリンピック委員会のワールドワイドパートナーとしてサポートを継続しています。

リオネジャネイロ2016大会

1988年に4名の義肢装具士で始まった修理サービスも、リオ2016大会では100名が参加するまでに拡大し、パラリンピックの運営に欠かせないサービスとなりました。リオ2016大会でのオフィシャルサービスサプライヤーとしての実績をご紹介します。



パラリンピック選手村内の修理センター

修理サービス

- ・29ヵ国から集まった100名の修理チームが、26言語で対応。
- ・総修理件数 2,408件、総修理時間数 10,418時間、134ヵ国 1,162名の選手にサービスを提供。
- ・選手村内にある修理センターは7:30～23:00までオープン、
- ・開会式の12日前から選手の使用する機器のメンテナンス、修理に対応。（24時間緊急修理サービスにも対応）



ストックルーム

ドイツから運ばれた修理用機器と部品

- ・競合製品も含めた修理用部品の数は15,000個。（義足足部300個、走行用板バネ80本、車いすタイヤ1,100本）
- ・修理のための機器の総重量は18トン。
- ・選手村内の修理サービスセンターの広さは650平米。



車いすテニスの会場内の修理ブース

競技会場での修理

- ・14種目の競技会場内にも修理ブースを設置。
- ・試合中に発生した破損等に直ぐに対応し、選手が試合に戻る事が可能。時には、観客が見守る中で緊急修理をすることもある。
- ・車いすマラソンやパラトライアスロンに対応するために移動用修理サービスカーも配備。

競技会場にも溶接設備を完備

衝突の激しいウィルチェアーラグビーや車いすバスケットボールには溶接が欠かせません。



ミリ単位でのサイズ調整

ベルトや車いすのクッションの補修にミシンが大活躍。ユニフォームの裾上げやバックの補修に使うこともあります。



選手の笑顔

選手の笑顔が忙しい毎日の励みになります。修理センターは各国の選手のコミュニケーションの場にもなっています。



共生社会の実現を願って

メダリストによるランニングクリニック



オットーボックは、ロンドン2012パラリンピック 100 m (T42)、リオ2016パラリンピック 走幅跳 (T42) の金メダリスト、ハインリッヒ ポポフ選手を指導者に迎え、義足装着者を対象としたランニングクリニックを、2012年から世界各地で開催しています。スポーツ用義足を使用した走り方を学ぶことから、友達や家族と一緒にスポーツ、レクリエーションを楽しみ、健康的で前向きな生活を取り戻していただきたいとの願いを込めた活動です。

日本では2015年からポポフ選手と山本 篤選手(リオ2016大会 走幅跳 (T42) 銀メダリスト、4×100m 銅メダリスト)を指導者に迎え、毎年開催しています。「数十年ぶりに両足が浮く感じが体感した」「頬にあたる風が気持ちいい」等々、毎回参加者の方から嬉しいお言葉をいただくだけでなく、参加者の真剣に取り組む姿に勇気と感動をいただいています。ランニングクリニックへの参加をきっかけに、本格的に陸上競技を始められる方も多く、少しでも障がい者スポーツを知っていただく機会になればと願っています。



バスケットなどを楽しむ



走る基本を学ぶ

ランニングクリニック開催記録



開催場所：日本大学文理学部キャンパス（東京）
2015 年参加者 :12 名



開催場所：明海大学浦安キャンパス（千葉）
2016 年参加者 14 名
2017 年参加者 10 名
2018 年参加者 9 名



開催場所：東京大学御殿下記念館
2017 年アドバンスコース・トレーナーズトレーニング（主催：東京大学スポーツ先端科学研究拠点）を実施
2015 年/2016 年の参加者 18 名が参加

学校訪問

パラリンピック競技大会 金メダリスト、ハインリッヒ ポポフ選手は障がいや障がい者スポーツへの理解を深めるための学校訪問を行っています。子供たちが障がいとは何かを考える機会にしていただければと思っています。



講演



金メダルを持ってみる



ポポフ選手と一緒にかけっこ

展示会

オットーボックは「パッション フォー パラリンピック」という展示会を世界各地で開催しています。パラリンピック競技で使用される機器を知り、実際にスポーツを体験することでパラリンピック競技大会への認知を深めてもらっています。



スポーツ義足の板バネの強さを体験



ハンドサイクルで競走



スポーツ義足と日常義足



会社概要

設立 1999年1月6日
資本金 6,000万円
従業員数 40名
所在地 〒108-0023
東京都港区芝浦4-4-44 横河ビル8F
TEL 03-3798-2111 (代表)
FAX 03-3798-2112



地図 (PDF) QRコード

取扱製品

義肢

- 義手パーツ (筋電義手/能動義手/装飾義手/他)
- 義足パーツ (膝継手/足部/アダプター/他)
- 義肢装具製作用 機械・工具・材料

装具

- 軟性装具 (上肢用/体幹用/下肢用/サポーター類を含む)
- 硬性・半硬性装具 (上肢用/体幹用/下肢用)
- カスタムメイド用パーツ (継手/支柱/治具/他)

車いす・座位保持製品

- 移動用機器 (成人用車いす/小児用車いす/小児用バギー/スポーツ用車いす)
- 訓練用機器 (小児用歩行器)
- 日常生活用具 (バスチェア)
- その他 (シーティングアクセサリ/車いす用クッション/他)

(2018年10月現在)



義肢、装具、車いす、外骨格装置

オッターボックは
東京2020パラリンピック競技大会
を応援しています。

ottobock.

オッターボック・ジャパン株式会社

www.ottobock.co.jp

〒108-0023 東京都港区芝浦4-4-44 横河ビル8F

TEL 03-3798-2111 (代表) FAX 03-3798-2112